

『大切な友だち』

西大路小学校 6年 中川 千晴

みなさんは、友だちは大切だと思いますか私は、今はとても大切だと思っています。ですが、私が友だちを本当に大切だと感じたのは、実は今年に入ってからでした。

4年生までは、友だちとは、「一緒に遊んでくれる人」という考え方でした。だから、ただ楽しく遊べたらいいというだけで、その友だちにどう思われようと気にしていませんでした。

でも5年生になると、委員会や学級の仕事が増えてきて、休み時間もそれらの仕事をしなくてはならないことが多くなりました。また、勉強も難しくなり、宿題も多くなってきて、友だちと遊ぶ時間もどんどん少なくなっていました。そうすると、私の中で友だちに対する思いが変化してきました。一緒に楽しく話している時は楽しい存在、何か相談しあう時は頼りになる存在なのに、意見が合わなくて少しけんかになってしまうと一緒にいるのが気まずくなって、めんどろな存在に思うようになっていました。友だちと一緒に遊ぶのが楽しかったはずなのに、めんどろなことになりたくなくて、あまり自分から積極的に関わらないようになっていきました。

そんな風に過ごしてきて、6年生になった今年、友だちと一度言い合いになったことがありました。その時私は、あやまったのに聞いてもらえなかったように感じて、「ちゃんとあやまったのに。」と少し不満な気持ちでいました。ですが、そのうち友だちみんなから見放されたような気持ちになり、とても悲しくなりました。何で言い合いになるようなことをしてしまったのだろうと心の中で後悔しました。私は、みんなに嫌われてしまったかな、話しかけてくれるかなと不安な気持ちでいっぱいでした。そして、そんな気持ちのまま学校へ行きました。やっぱりみんなは私の事が嫌いになったかなと、不安でたまりませんでした。ですが、友だちはいつも通り「おはよう。」と笑顔で話しかけてくれました。その時はとても安心し、「友だちは簡単に見放さないでいてくれた。」と、不安がなくなり、とてもうれしく思いました。

そして、私はこの出来事を通して、自分にとって友だちがすごく大切で、大きな存在だなと感じるようになりました。見放された感じがしたのも、本当は友だちが大切だと思っていたからだと思います。

そして、友だちが大切だと確信してからは、大切だと思う事が増えました。例えば、分からない所がある時、友だちは嫌な顔ひとつせず教えてくれていると気づきました。また、休み時間に席に座っていると、話しかけに来てくれたりすることも今まで以上にうれしく思うようになりました。そのおかげで、分からな

い所が分かるようになったり、遊びに誘うのが少し苦手な私だけれど、休み時間も楽しく過ごすことができたりできています。

友だちに多くのことをしてもらっていると思うようになってからは、私も少しずつ友だちのことを思って行動するようにしました。例えば、9月にあった運動会の練習では、応援団長になった友だちに、応援練習のことをほとんど任せてしまっていたことがありました。だから、ふだんならあまり声を出したくない私ですが、少しでも友だちの負担を減らそうと下学年に声をかけたり、応援団長が出した指示をもう一度伝えたりしました。そうすることで、運動会の練習がスムーズにいったのはもちろん、色の中でも頼りにされることが多くなり、はずかしいようなうれしいような気持ちになりました。

友だちがいなければ、分からない所があっても、聞けずにわからないまま過ごしていたと思うし、休み時間もつまらない時間になっていたと思います。今、私がそうっていないのは、友だちがいてくれるおかげです。これからは、友だちの気持ちも自分の気持ちも大切にして、一緒に楽しい時間を過ごしていきたいです。